

第1学年 生活科学習指導案

指導者 1年1組

展開場所

アリーナ

- 1 単元名 あきとなかよし～たのしいあきいっぱい～
内容 (5)「季節の変化と生活」(6)「自然や物を使った遊び」

2 単元について

子供の実態と思いや願い

本校の周辺には小さな公園がいくつかあるものの、季節の変化を存分に味わえるような緑の多い公園や広場が少ない。そのため、公園では遊具遊びやおにごっこをしたり、室内ではゲーム等で遊んだりする子供が多く見られる。また、手作りで遊びを楽しんだり、植物や生き物と触れ合ったりする遊びの経験は乏しい。

入学後、子供たちは春の公園へ探検に行き、春に芽吹く植物の色や香りを感じ、原っぱを跳びまわる昆虫達を追いかけ、命のいぶきを肌で感じながら、自然に触れて遊ぶ楽しさを味わってきた。

夏には、夏の暑さを感じながら、校庭の砂場で体全体で砂の感触を楽しんだり、友達と山やトンネルを作ったりした。また、シャボン玉遊びや水遊びを通して、日差しが反射する美しさや、冷たい水の心地よさに触れ、存分に楽しむ姿が見られた。そして、友達と一緒にかわりながら活動することによって、楽しさが増すことに気付いてきている。

秋遊びの経験についての問いには、「どんぐりゴマを作って遊んだよ。」「サツマイモ掘りで大きな芋を掘ることができたよ。」などと幼稚園や保育園での活動を楽しそうに答える子供が多く見られた。そこで、子供の思いや願いをもとに、活動を工夫しながら、諸感覚を使って秋を感じたり、遊んだりしながら秋の自然と親しめるようにしていきたい。また、落ち葉や木の実、草花などを生かし、自然と直接かわりながら遊ぶことを通して自然の不思議さや面白さに気付けるように、子供の思いや願いを実現する体験活動や表現活動の充実を図っていきたい。

単元設定の価値

本単元は、小学校学習指導要領の内容(5)(6)とかわる。

ここでは、校庭や学校の周りで、木の実や落ち葉などで十分に遊びながら「秋」にどっぷりと浸り、おもちゃや飾りなどを作る。そこから、秋を楽しみながら、工夫して作りだした遊びの楽しさ、遊びに浸りきる心地よさを味わえるようにすることを目指す。そこで、小単元1では身近な自然に目を向け、繰り返し秋にかかわる活動し、体全体を使って秋を十分に味わえるようにする。小単元2では、身の周りの自然や身近にある物を使ったりなどして、おもちゃや飾りなどを作る。遊ぶことと作ることを一体的に取り上げるようにして、遊びをつくり出す楽しさや夢中になって遊ぶ楽しさを味わえるようにする。小単元3、4では、仲良くなった秋を振り返り、お気に入りの秋を友だちや年長児と共に「秋いっぱいワクワクランド」で楽しむ。活動後には、「秋の思い出」を自分なりにまとめ、身近な自然のよさや、自然とかわる楽しさに改めて気づき、自然を生かすことで自分たちの生活も楽しくなることに気付かせていきたい。

であい

- ・登下校中での秋探し、秋集め、見つけたものを紹介する「秋みつけスピーチ」
- ・校庭で見つけた虫、小動物、植物などの変化に気付くような体験学習
- ・育ててきたアサガオの種とりや、サツマイモを収穫する栽培活動

ふれあい

- ・身近な公園や実りの多い中学校での秋探しから自然と直接かわり遊ぶ活動
- ・集めてきた落ち葉や木の実、草花を使った製作活動
- ・作ったものを使って繰り返し遊んだり、試したりする体験活動
- ・「上手にできたこと」や「工夫したこと」を豊かに表現する話し合い活動
「あのねタイム」(日常からの積み重ね)

まなびあい

- ・作ったものを使って遊びを工夫し、友達と遊ぶ「秋いっぱいワクワクランド」
- ・「秋いっぱいワクワクランド」で遊んで気付いたことや面白かったことなどを友達と共有し合い、振り返る「あのねタイム」(日常からの積み重ね)
- ・年長児を招待して一緒に楽しく遊んだり、招待した人を楽しませたりするための準備やかわり方を考える活動
- ・自分が夢中になって遊んだこと、自分が頑張ったことを振り返る秋の思い出発表会

生活科の見方・考え方を生かす学びの姿

本単元では、秋の自然にふれ合う体験や、季節に応じて自分たちの生活を工夫する体験活動を行っていく。この活動では、諸感覚を使って、繰り返し自然と触れ合ったり自分なりの思いや願いをもち、進んで自然とかかわったりしていく。この体験から「この間、公園に来た時には、葉っぱが緑色だったけど色が少しずつ黄色くなってきたね。」と夏の様子と比べたり、「葉っぱも色が変わるように私たちの服も長袖になってきたね。」と自分との暮らしと関連付けて、気付いたことなどを深めていきたい。また、公園などで見つけてきた、落ち葉や木の実などを持ち帰ったりして遊びに使う物を工夫して作ったり、作ったものを使って遊んだりする活動の中で、「どんぐりはコマにできそうだから穴をあけて爪楊枝を刺したら回るんじゃないかな。」と見通しをもって考えながら試したり、「クヌギのコマの方が丸いから回しやすいんじゃないかな」と予測しながら自らの思いや願いの実現に向けて工夫したりできるような学習活動を充実していき、気付きの質を高めていきたい。また、気付いたことを友達と伝え合い交流することによりこれまでの一つ一つの気付きが関連付けられていき、それを確かにする表現活動の中で深い学びへとつなげていきたい。そして体験を通して感動したことや喜びを振り返ったりまとめたりすることで、視点を変えて自分自身の成長や変容に気付けるようにしたい。



育みたい力

<資質・能力>

- A 諸感覚を働かせて感じ・気付き・理解する力
- B 試行錯誤しながら対象を捉え表現し、創造する力
- C 学んだことを取り入れ生活の中で役立てる力

<生活上必要な習慣・技能>

- ・道具や用具の準備、片付け、整理整頓する。
- ・遊びのルールを守る。
- ・必要な道具を使って作る、遊ぶ。

3 単元の目標

秋の自然に浸り、秋の自然物を使って作りたいものを作ったり、遊び方を工夫したりする活動を通して、季節の変化や自然と関わって遊ぶ楽しさに気付き、みんなで秋の遊びを楽しむことができるようにする。

4 単元の観点別評価規準

	A 知識・技能	B 思考力・判断力・表現力	C 主体的に学習に取り組む態度
単元における評価規準	○諸感覚を働かせて自然の様子や四季の変化、季節によって自分たちの生活の様子が変わってくることに気付くとともに、秋の自然を使って遊べた面白さや自然の不思議さを感じ取り、自分や一緒に遊んだ友達のよさに気付いたりしている。	○自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることについて考え、かかわる方法を工夫するとともに花や実などの自然物や身近な材料を使って、工夫して作品を作ったり遊んだりして表現している。	○身近な自然に関心をもち、それらとかかわる活動を通して、自然を生かした遊びや生活を楽しもうとするとともに自然に自ら働きかけ、友達と楽しみながら遊びを創り出そうとしている。
小単元 1	(1) 季節の変化や秋の様子に気付いている。 (2) 秋の草花や、木の葉や木の実を使って、工夫して遊ぶと楽しいことに気付いている。	(1) 見つけた秋を絵や文にかき表そうとしている。	(1) 進んで秋のものを見付けようとしている。
小単元 2	(3) 季節に合った遊びや活動をすると生活が楽しくなることに気付いている。	(2) 秋の自然物を使って、自然や季節にかかわる楽しみ方を自分なりに工夫しようとしている。	(2) 作りたいものを決めて秋集めをし、進んで伝えようとしている。 (3) 進んで自然を楽しんだり、その楽しさを伝えたりしようとしている。
小単元 3	(4) 自分やクラスの友達が作ったものよさやがんばりに気付いている。	(3) 友達や年長児と楽しく遊べるように、試しながら、遊ぶものを工夫しようとしている。	(4) 友達と協力しながら年長児に進んでかかわり、楽しもうとしている。
小単元 4	(5) 秋の自然を使って、楽しむことのできた自分に気付いている。	(4) 秋の楽しかった思い出を自分の作品や言葉で表現しようとしている。	(5) 秋の楽しかった思い出を進んで伝えようとしている。

5 指導計画(25時間扱い)

小単元 (時数)	主な学習活動と内容	教師の働きかけ(○)	評価(☆)
<p>一 あきとふれあおう 【1】 ⑨ 秋をみつけよう</p>	<p>【小単元の目標】諸感覚を使って秋の動植物を観察したり、葉や木々の実を集めたり、秋になって、校庭や学校の周りの自然の様子が変わっていることに気付くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な場所で見つけた秋について知らせ合う。(1) 学校の校庭で秋見つけをする。(1) (家庭などで、落ち葉や木の実などを集める。)(常時) 公園に行ってどんな秋が見つけられるか計画を立てる。(1) 緑町公園や西千葉公園に行き秋を感じながら遊ぶ。(2) 自分がやってみて楽しかったことを友達と紹介し合う。(1)【あのねタイム】 西千葉公園に行き自分がやってみたい遊びを楽しむ。(2) 活動を振り返り、発見カードに書く。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○登下校中などで見つけた秋やこれまで経験したことのある秋にまつわることを話し合えるように教科書の「あきごよみ」を提示する。 ○一人が見つけた秋をみんなに紹介するなどして秋を増やし広めるようにする。 ○公園内での危険箇所を事前に確認し、安全に気をつけて活動できるようにする。 ○自然の中で、落ち葉や木の実を加工してその場で簡単なものを作るように道具袋を用意する。 ○カードに書いていることや発表したことを取り上げて友達や自分のよさに気付かせ、自信や満足感をもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆進んで秋のものを見つけようとしている。(主) ☆季節の変化や秋の様子に気付いている。(知) ☆秋の草花や、木の葉や木の実を使って、工夫して遊ぶと楽しいことに気付いている。(知) ☆見つけた秋を絵や文にかき表すことができる。(思)
<p>二 あきとふれあおう 【2】 ⑩ 見つけた秋で作ったり遊んだりしよう</p>	<p>【小単元の目標】自分たちで集めた葉や木の実などの秋の自然を利用して、工夫しておもちゃをつくり、秋の自然を利用して遊ぶことのおもしろさや自然の不思議さに気付くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> もっとしてみたいことを考え、発表する。(1) 【あのねタイム】 緑町中学校の校庭の周りで秋集めをする。(1) 集めてきたどんぐりを使って作ってみたいものを発表し合う。(1) どんぐりを使ってもっと遊べる物を工夫して遊ぶ。(本時2/2) 集めてきたものを使って、いろいろなものを工夫して作ったり遊んだりする。(2) + (図工2) 楽しかった秋の遊びについて振り返り、発見カードに書いて友達に紹介する。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時で楽しかったことや友達を紹介したことでもっとやりたくなったことを話せるよう活動の様子を掲示する。 ○虫に刺されないように服装に気を付けるよう事前に家庭に連絡しておく。 ○集めて作りたい物が分かるように秋コーナーをつくり、写真や本をあらかじめ置いて見通しをもてるようにする。 ○教師も一緒に自分の作品を作り、子供の活動に刺激を与えたり、子供の気持ちを見取ったりする。 ○材料や道具は安全な使い方ができるように、何に使うのか表示し、事前指導しておく。 ○出来上がった子供には、その作品を使った遊びや表現方法を考えるように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆作りたいものを決めて秋集めをし、自分の見つけた秋を進んで伝えようとしている。(主) ☆季節に合った遊びや活動をすると生活が楽しくなることに気付いている。(知) ☆秋の自然物を使って、自然や季節にかかわる楽しみ方を自分なりに工夫しようとしている。(思) ☆進んで自然を楽しんだり、その楽しさを伝えたりしようとしている。(主)

<p>三 つくる 秋 いっ ぱい ワク ワク ラン ド ⑤</p>	<p>【小単元の目標】つくったおもちゃで友達に遊んでもらったり、友達と競争したりする中で、もっと楽しく遊べるように、つくり方や遊び方を工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの友達と「秋いっぱいワクワクランド」で遊ぶ準備をする。(図工3) ・クラスの友達と「秋いっぱいワクワクランド」で遊ぶ。(1) ・年長児を招待して「秋いっぱいワクワクランド」で遊ぶ計画を立てる。(1) ・年長児を招待して「秋いっぱいワクワクランド」で遊ぶ。(2) ・「秋いっぱいワクワクランド」を振り返る。(1) 【あのねタイム】 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなが作ったものを使って遊ぶように遊ぶ場を教科書を参考にしたり、楽しそうに遊んでいた友達などから聞き出したりして、イメージをもたせる。 ○遊んでみて、よかった遊び場について、そのよさを友達に進んで伝えられるようにする。 ○近隣の幼稚園や保育所と連携をとり、事前に打ち合わせをし、連携を図る。 ○自分たちが作ったものを生かしたコーナーにするよう助言する。 ○どの子供にも自分の役割があるようにする。また、相手の立場になって、遊びの準備を進めることを意識させるようにする。 ○年長児とのかかわりで工夫したことや、うまくいったことなどを称賛し、「できた」という自信をもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分やクラスの友達が作ったものよさやがんばりに気付いている。㊦ ☆友達と楽しく遊べるように、試しながら、遊ぶものを工夫したりしている。㊦ ☆年長児が楽しく遊べるように、繰り返し試しながら、ルールを変えたり、遊ぶものを工夫したりしている。㊦ ☆友達と協力して、年長児と進んでかかわり楽しもうとしている。㊦
<p>四 秋 の 思 い 出 い っ ぱ い ③</p>	<p>【小単元の目標】自分の秋を振り返り、一人一人の思い出を作品に表すことで、紹介することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の思い出を振り返り、発表し合う。(1) 【あのねタイム】 ・自分の秋の思い出をファイルに整理したり、飾ったりする。(1) ・自分の表現した秋をカードに書いて紹介する。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○今まで書きためてきたカードを見て、思い出を振り返られるようにする。 ○自分の秋を振り返り、一人一人の思い出を作品や言葉に生かし、表現するよう声をかける。 ○自分が作った作品を活用させ話すときに役立てられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆秋の楽しかった思い出を進んで伝えたりしようとしている。㊦ ☆秋の楽しかった思い出を自分の作品や言葉で表現しようとしている。㊦ ☆秋の自然を使って、楽しむことのできた自分に気付いている。㊦

6 視点について

〈視点1〉学習意欲を喚起する手立ての工夫

【子供の思いや願いを実現する体験活動の充実】

春、夏と学校探検や公園探検を経験してきて、子供たちは、秋での探検を楽しみにしている。また、子供たちは、自然や虫や草花などの生き物に興味をもっているため、四季の変化に気付き、季節のよさを実感していくことが期待できる。そこで、一人一人に諸感覚を使って秋を楽しむ活動を十分に味わわせ、その子なりの秋の感じ取り方を大切にすることで、思いが深まり、秋のよさに気付くことができる。そのために、小単元1では、春や夏に行った校庭探検の様子を思い出しながら同じ場所に探検しに行く。そのことで春から夏の頃とは違う自然の様子に気付いたり、秋ならではの遊びを見つけたりすることができる。また、探検中に落ち葉や木の実などを使って遊ぶことが予想されるので、あらかじめ必要と予想される道具や材料をもって探検し、必要に応じていつでも使え

るようにし、活動を広げていきたい。小単元2では、秋の自然を使って遊んだり、作ったりするのに必要な材料を集めるために目的をもって2度目の探検に行く。繰り返し、探検することで「もっと見つけたい」「もっと集めたい」など意欲が高まり主体的に活動することができる。また、帰ってきてからは、拾ってきた材料を使って自分の作りたいものを工夫しながら作る活動を通して、子供の思いや願いを実現させていく。小単元3では、「あきいっぱいワクワクランド」で作ったおもちゃで友達に遊んでもらったり、友達と競争したりする中で、もっと楽しく遊べるように、作り方や遊び方を工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにしていきたい。

このように小単元ごとに子供の思いや願いに沿った体験活動を充実させることで学習意欲が高まり主体的に学ぶことができる。と考える。

【自分の学びを実感する「振り返り」の工夫】

本単元では、小単元ごとに体験学習を取り入れ、子供の思いや願いの実現に向けて活動していく。活動の中で子供たちは、「落ち葉の上を歩くとガサガサ音が鳴って楽しいよ。」「どんぐりにもいろいろな種類がありそうだなあ。」など様々なことに気付くだろう。その気づきを確かなものにするために振り返りを毎時間設定していく。その振り返りの中で、子供が自分の学びを実感するためには、見通しをもって学習し、自らの課題に向けて主体的に活動する中で問題解決できた時の満足感や達成感を味わうことが必要である。と考える。そのために「振り返り」の目的をしっかりと見直し、工夫していく。具体的には次に示す通りである。

見通しをもつための前時までの振り返り

○学習の導入時に課題をつかむために前時のことを想起させ、本時での学習課題をつかませる。そのことにより解決の見通しをもって主体的に学習に向かうことができる。と考える。また、これまでの学習の様子が分かるような掲示物や資料、学習の流れが分かるような板書の工夫など視覚的に分かるようにする。

学んだことを確認し、次につなげるための振り返り

- ①学習の最後には、振り返りの時間を設ける。分かったことや次に解決したいことなどその時間の中で自分についてた力を振り返ることができるようにするために、学習カードを工夫する。
- ②活動したことを素直に言葉で表現できるようにするために、表現の場を意図的に設定する。
また、友達との交流の仕方を学んだり、伝えたいことを自分の言葉で話したりすることができるようにするために、「あのねタイム」を設定し、よりよく表現できるような活動を積み重ねていく。

【思いや願いの実現に向けた名人さんとのかかわり】

小単元2の「見つけた秋で作ったり遊んだりしよう」では、集めてきた秋の木の葉や木の実などを使って自分の作りたいものを考え、作っていく活動がある。活動中は、「どんぐりに穴をあけたいな」「まつぼっくりと木の枝をくっつけたいな」など普段使わないような道具が必要になることが考えられる。そこで安全に気を付けて活動できるような見守りや、自分が思っているように道具が使えない時の支援をしていただけるように学校とつながりのある地域の方をお呼びする。学習中、作り方のコツを教えてもらったり、励ましの言葉をかけていただいたりして、名人さんとのかかわりで技能を身に付けるだけでなく、自分の思いや願いを実現するために名人さんとの対話を通してかかわりを深め、自分の願いに向かって一層自発的に対象にかかわっていくことができる。と考える。

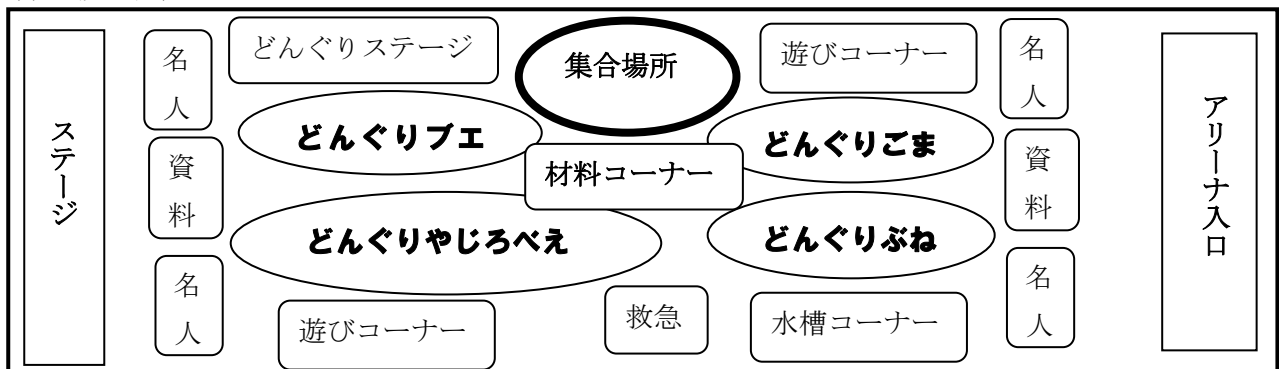
〈視点2〉問題解決に向けた思考力を育む指導の工夫

【子供の思考をつなげる多様な学習活動】

小単元1では、校庭や公園にある秋を見つけに行く体験を重視する。この活動中には、諸感覚を使って秋を楽しむことにより、子供は自分の目で発見する喜びを味わえると考えられる。これは、対象と自分とのかかわりが深まり、そのものの価値に気付くことができるような見付ける力がついていくことで気付きが深まっていく。それらの気付きを言語化する活動の中で「ぼくのまつぼっくりは、ひらいているのに〇〇ちゃんのは、ひらいてなかったけどなんでだろう。」と友達の見つけたものと比べてみたり、「拾った場所が水たまりのところだったのに関係があるのかな。」といろいろな原因を関連付けながら考えたり、「開いたり、閉じたりできて傘みたいだね」と例えたりと思考を働かせていくだろう。

小単元2、3では、拾ってきた秋の実を使って遊んだり、遊ぶものや飾ったりするものなどの製作活動をする。活動の中では、自分の思いや願いを膨らませながら作りたいものを決めて試行錯誤しながら活動に没頭していくと考える。作っていくうちに「ぼくのどんぐりゴマは、よく回るんだよ。」とこだわりをもっていく。そのことを生かして、本時ではさらに子供がもっとやりたいと夢中になる素材で遊べるおもちゃを作って遊ぶ活動を繰り返し行う。同じ素材を使うことで友達とも競い合ったり、教え合ったりと自然と交流も生まれるだろう。そのための材料コーナーや遊ぼうコーナーを設置し、活動の環境を整えることで、「作る・比べる・試す・工夫する」活動ができるようにしていきたい。また、夢中になる素材だからこそ問題意識も生まれ、見通しをもちながら「もっと回るこまが作りたいな。」「どんぐりの数を増やしてもバランスの取れるやじろべえをつくりたいな。」などこれまで学習してきたことを生かしながら自分の作りたいものを作り、友達とかかわるなかで思考を働かせ、新たな気付きを生み出していくことで気付きの質を高めていきたい。

(場の設定図)



【一人一人の気付きを広め、深める「学び合い」の工夫】

活動の中で、子供たちは、試行錯誤を繰り返しながら、秋の活動に夢中になることで「～を見つけた。」「～ができなくて困ったよ。」などの気付きをもつ。その一人一人の気付きは、直感的なものであったりするので気付きに対しても無意識であったりすると考える。そこで、体験後にはその気付きを友達と交流し、共有する場を設定していく。交流する時には、1年生という発達段階を考えて友達の話と比べながら聞くことを第一に、何を話しているのか分かったうえで反応できるように普段の言語活動を繰り返し行っていき、子供同士がかかわれるようにしていきたい。また、友達の話聞いて「～すればできそうだな。」「〇〇ちゃんから教わってうまくいかなかったところがあったよ。」などのように、一人では、気付けなかったことやできなかったことなども友達と協力し合ったり、学び合うことで新たな気付きが生まれたり、自分との関係や対象同士の関連に気付いたりして、一人一人の学びの質を高めることができるだろうと考える。

7 本時の指導

(1) 目標

どんぐりを使って、遊ぶものを工夫して作ったり遊んだりする活動を通して、身の周りの自然物を使って遊ぶ楽しさに気付いている。

(2) この時間の目指す子供の姿

どんぐりを使って、遊ぶものを工夫して作ったり、友達と楽しく遊んだりする。

(3) 展開 (14/25)

時間	学習活動と内容	教師の働きかけ (○) 評価 (☆)
0	<p>1 前時までの振り返りをし、本時の課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりごまの持つところが長かったから短くしてよく回るこまをつくりたいな。 ・どんぐりの種類を変えてフエをつくってみたいな。 ・フネに水が入らないように削り方を工夫するよ。 ・もう少しバランスのとれるやじろべえにしたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の様子を想起できるよう、写真を提示したり前の板書の内容を紹介したりする。 ○自分が今日やりたいことの見通しがもてるように学習カードを見るよう声をかけるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> つくったおもちゃで、もっとたのしくあそぶためにはどうしたらいいかな。 </div>	
7	<p>2 名人さんの紹介をし、作ったり遊んだりするときの約束を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動中に支援していただく、地域名人さんを知る。 ・安全に気を付け、製作をしたり、遊んだりする。けがをしたら救急コーナーへ行く。 ・工夫して楽しいことを見つけたら友達に教えてあげたり、声をかけあったりして遊ぶようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○名人の紹介や活動の約束は、子供たちが十分に活動できるように、配慮しながら確認する。 ○名人さんには子供の発想を大切に支援していただけるよう、あらかじめお願いしておくようにする。
10	<p>3 遊ぶものを工夫して作ったり遊んだりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どんぐりごまグループ</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 200px;"> 持つところが曲がっていると良く回らないからまっすぐさしたいな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 200px;"> 名人さんに相談したら穴をあける時に真ん中になるようにペンで印をつけるといって教えてもらったよ。 </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[あのねタイム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ようじの部分をつまんでひねるように回すと良く回るよ。 ・友達とどちらが長く回るか競争すると楽しいよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>やじろべえグループ</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 200px;"> うまくバランスがとれなくて指から落ちちゃうな。どうしたらいいかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 200px;"> 友達が「どんぐりの大きさをかえたらどう？」といったから同じ大きさにしたらできたよ。 </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[あのねタイム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりの大きさを同じにするとバランスがとれたよ。 ・指の上でバランスをとらずに机や台の上でやるとくるくる回って楽しかったよ。 </div> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○友達とおもちゃで遊んでは、作り直すといった活動を繰り返し行えるように、おもちゃの種類ごとに、材料コーナーや修理コーナーを設置しておく。 ○材料コーナーには、子供たちの思いや願いが実現できるように各おもちゃで必要な材料をあらかじめ聞き出し、用意しておく。 ○製作に困っている子供に対しては、製作のヒントになる掲示物や本をアドバイスコーナーに用意しておき、自由に手に取って参考にできるようにする。 ○子供たちが発見した気付きについては、共に共感したり一緒に活動してみるようにする。 ○おもちゃ作りの際、何度作り直しても思い通りにできず、その理由も考えられない子供に対しては、成功した友達や名人さんに相談するように声をかけるようにする。 ○作ったおもちゃに満足してしまった子供には、友達と遊んだり、競い合ったりするよう声をかけるようにする。

どんぐりぶえグループ

なかなか音が鳴らないな。友達によく鳴ってるから教えてもらおう。



〇〇ちゃんが下唇にどんぐりを当てたら鳴るって教えてくれてできたよ。

[あのねタイム]

- ・下唇にどんぐりを当てながら優しく吹くと音が鳴るよ。
- ・どんぐりの種類を変えると音の高さが変わったよ。

どんぐりぶねグループ

水が入らないで浮くようにしたいな。どんぐりを半分ぐらいまで削ってみよう。



友達と沈まない船をつかって競争したら楽しいよ。息をふくと動くよ。

[あのねタイム]

- ・削り方が浅いと船が浮きづらいから半分ぐらいまで削るようにするとよく浮くようになるよ。
- ・息を吹きかけると前に進んで楽しいよ。

3 5

- 4 見つけた遊びの楽しさを振り返る。
- ・活動して気付いたことや友達や名人さんに教わったことを振り返りカードに書く。
 - ・次の活動でやってみたいことを書く。
 - ・遊びの楽しさを紹介する。

じぶんがつくったおもちゃで、ともだちとたのしくあそべるようなあそびばをつくりたいな。

4 5

- 5 地域の方に挨拶をして片付ける。
- ・本時までの感謝をこめて、全体で挨拶をする。
 - ・身の回りの片づけをする。

☆秋の自然物を使って、自然や季節にかかわる楽しみ方を自分なりに工夫しようとしている。(㊦)

○見つけたことや工夫したことを、発表させることによって気付きを広めるようにする。

○伝え合う活動の中で、より分かりやすく伝えられるよう、実際に実演させながら発表できるように促す。

○気付きを共有する為に、友達が見つけたことをみんなで確かめたり、見直したりするように助言する。

○粘り強く取り組んだ姿や子供の気付きに対しては、失敗したとしても称賛し、自信をもたせるようにする。

☆進んで自然を楽しんだり、その楽しさを伝えたりしようとしている。(㊦)

○活動後すぐの思いを書けるよう、振り返りカードを用意しておく。

○振り返りカードは落ち着いて書けるように、机を用意する。

○書いている気付きや分かったことなど書けている子をあらかじめ見取り紹介するようにする。

○児童を集め、地域の方には一箇所に集まって並んでもらう。

せいかつかあんけーと

(なまえ)

※じぶんのおもったようにかいてみてください。○をつけるところもあります。

1 せいかつかのがくしゅうはすきですか。 すき ふつう きらい
(りゅう)

2 くさばなあそびはすきですか すき ふつう きらい

3 くさばなあそびでたのしかったことにまるをつけましょう ○はいくつでもいいです。

つくること おとをだしたこと ひっぱりあったこと (くさずもう)

じぶんのしょうかいしたことをはっぴょうしたこと かーどにかいたこと

ともだちといっしょにあそんだこと

4 あきといえぼどんなことがうかびますか いくつでもかいてもいいです
()

5 あきのはっばやきのみであそんだことはありますか ある ない

6 あるとこたえたひとは、どんなあそびをしましたか
()

7 あきになったらせいかつかでどんなべんきょうをしてみたいですか
()

8 どんぐりをつかったあそびでしってるものをおしえてください。いくつでもいいです。
()

事前アンケート 1 生活科の勉強は好きですか。 すき 51名 ふつう 14名 きらい 1名 2 草花遊びは好きですか。 すき 53名 ふつう 12名 きらい 1名 3 草花遊びで、楽しかったことに丸をつけましょう。(複数回答あり) 作った 32名 音を出した 21名 すもうをした 21名 自分のしたことを紹介した 10名 作り方ややりかたを友達に教えた 10名 カードにやったことを書いた 6名 4 秋の葉っぱや木の実で遊んだことがありますか。 ある 46名 ない 20名 5 「ある」と答えた人は、どんなことをしましたか。(○をつける)) どんぐりごま 30名 コリントゲーム 14名 ひつつきむし 13名 葉っぱの絵 6名 人形 5名 どんぐり笛 4名 どんぐり船 4名